第６学年　国語科学習指導案

日　時：平成 24 年 11 月 16 日（金）
指導者：１組　　井上　学

１　単元名　筆者の「ものの見方」を活用して，絵画コメンテーターになろう

２　教材名

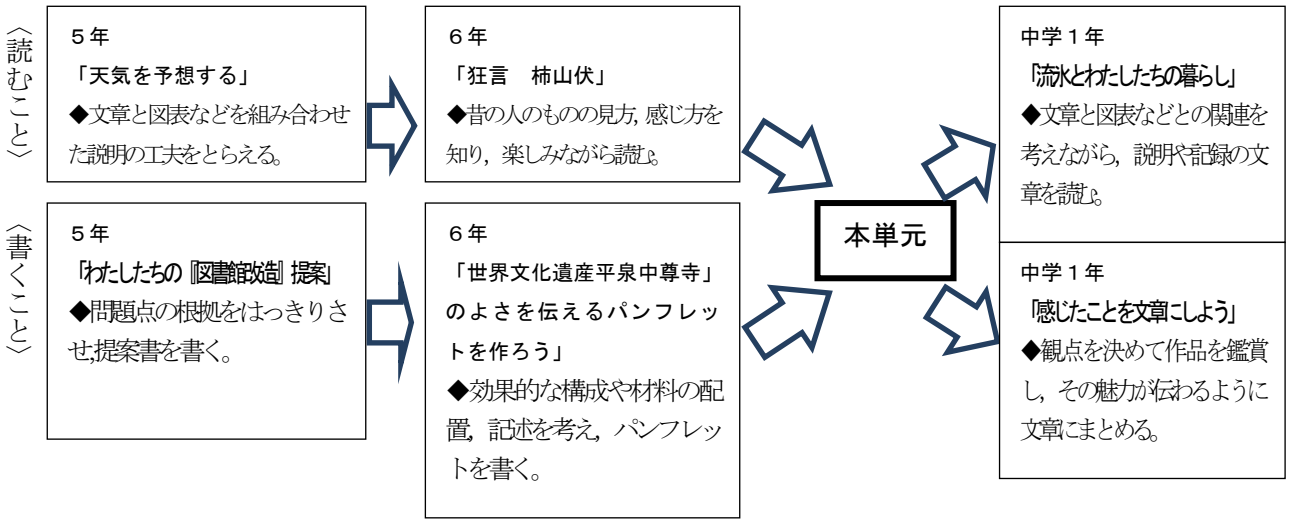
（１）中核教材名　「『鳥獣戯画』を読む」「この絵、わたしはこう見る」（光村図書　６年）
（２）補助教材名　①　「鳥獣人物戯画　甲巻」のミニ絵巻
②　「鳥獣戯画　甲巻」への稲次保夫の評論とその解説（教師による改作）
③　拡大テキスト（解説がある美術絵画）４点
④　「風神・雷神図」（光村図書・中学校美術一）

３　単元を貫いて位置付ける言語活動とその説明

単元を貫いて位置付ける言語活動（第５・６学年　読むことイ　書くことウ）
自分の課題を解決するために，複数の解説文を読み比べ，利用して簡単な解説文を書くこと。

・　解説文を「①中核教材②中核教材とは別の筆者の解説文③自分が興味をもった絵画の解説文」と３段階で比べて読むことにより，自分の着眼点をしっかりと持ち，より自分の表現したい方法を見付けることができる。
・　自分の課題を解決するために，複数の本や文章などを比べて読み，必要な情報を選ぶことができる。
・　自分が多くの人にぜひ勧めたいと思う事柄のよさを，確かな根拠をもって選んだり，他と比較してそのよさをとらえたりすることができる。
・　筆遣い，姿，動き，表情等，自分なりにとらえた着眼点を「絵をよむ観点」として明確にもち，３００字程度の解説文にまとめることにより，絵の魅力を伝えることができる。

【言語活動の系統】



４　単元について

（１）児童について

児童は，これまでの，「Ｃ読むこと」領域の説明的な文章の学習で，目的に応じて書かれている内容を的確に押さえて要旨をとらえ，自分の考えを明確にしながら読む学習を積み重ねてきた。５学年「天気を予想する」では，要旨をとらえ，筆者の考えに対し自分の知識や経験，読書体験に引き寄せて書きまとめることにより，自分の考えを明確にして読む力を付けてきている。また，文章と図表の組み合わせによる説明の分かりやすさについて，自分の考えをもつことができた。更に６学年「柿山伏」では，狂言３作品の中から自分が伝えたい作品を２つ選び，相手に勧めたい

理由が伝わるようにリーフレットを書くこと,そしてそれぞれが書きまとめたリーフレットを交流することにより，お互いの考えの共通点や相違点に気付き，自分の考えを広げたり深めたりすることができるようになってきている。

しかし,自分の考えの根拠が曖昧なため,自信をもって勧める文章を書けなかったり,他者の考えを受け入れず,批判的な考えになる面も見られる。

「B書くこと」領域においては,「世界文化遺産平泉中尊寺のよさを伝えるパンフレットを作ろう」で，効果的な構成や材料の配置のしかた，記述の仕方を考え一人一人がパンフレットを書くことができた。

着眼点を広げ，自分の考えに合致する評価語彙を用いることにより，自分の見方や感じ方をより適切に文章で表現する学習へと進めていく時期であると考える。

（２）教材について

本単元は，対象物に対しての筆者の解説や評価の仕方を押さえながら読み,「解説文を作成する」活動を通して，目的に応じて必要な内容を押さえて要旨をとらえて読み，ものの見方を広げること，また，読み手に絵画について興味をもたせられるような解説文を書くことをねらいとしている。

作品の「解説文」とは,「物事を解説するために，短く，簡潔，正確で，むだな修飾語のない，一度読んだだけで誰でも理解できるもの」「簡略であり，かつ要点や条件が明確であるもの」とし，作者の心情や意図について調べて書く「鑑賞文」とは，区別して扱う。書き手が絵から感受したことを伝えるための文として扱う。

中核教材である「『鳥獣戯画』を読む」は，絵に対する解説と解釈，評価が述べられた評論文としての特徴をもっている。筆者の物の見方（解釈・評価）とその対象が明確に表されているため，筆者のものの見方をとらえやすく，自分の見方と比較することができる教材となっている。また，非連続型テキスト（絵）と連続型テキスト（文章）を照らし合わせて読むという読みの方法を身につけたり，体言止めや語りかけるような表現など，ものの見方や感じ方を伝えるための筆者の工夫を学ぶことにも適した教材である。

しかし，児童にとっては芸術作品の解説文は初めて出会う文章であることから，別の筆者が書いた「鳥獣戯画」の解説文と比較して読むことができるようにするため,「稲次保夫」氏の評論を教師が優しい表現に改作した物を用いる。次に，子どもたちが書く「風神・雷神図」の解説につなげられるよう「動的な迫力をもつ美術作品」の解説文を用意する。

（３）指導に当たって

本単元は,自分が選んだ名画・名作の魅力をコメンテーターとなって解説し,多くの人に共感してもらうということを目的として学習を展開したいと考える。そのためには,作品自体も感性に訴えるもの,児童が興味をもてるものであることが大切であると考える。

そこで,本単元を学習した後，総合的な学習の時間で盛岡の先人である船越保武の作品を県立美術館で鑑賞し，保武作品の魅力を紹介する学習を展開したい。

第一次では,単元全体の見通しをもち,意欲的に学習を進めていくことができるようにする。そのために,「風神・雷神図」の拡大図を提示し,「その圧倒的な迫力や力強さを相手に伝えるにはどうしたらよいか。」について交流した後に,「絵画コメンテーターになろう」という学習課題を示し,学習計画を立てていく。これらの活動を行うことで,見通しをもち意欲的に学習を進められると考える。

第二次では,教材「『鳥獣戯画』を読む」を読み，筆者の効果的な解説の仕方や「絵画を読む」観点を発見する活動を通して,「文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえる力」「筆者の考えと自分の考えを比較し,共通点や相違点を見付ける力」を身に付けることができるようにする。

そのために,「絵画を読む」観点をワークシートにまとめる学習を中心に行う。ここでは,筆者が何を取り上げ,取り上げたものの何に着目し（着眼点）,どのような解説や評価をしているか語句にも気を付けて押さえる（評価語彙)。次に,別の筆者の考えと比較し,共通点や相違点についても話し合わせることで,「絵画を読む」観点を定着させ，さらに自分の選んだ絵画の解説文を学習することで，考えを広げたり深めたりさせたい。

第三次では,第二次の学習を生かして,美術絵画を鑑賞し,考えた構成を基に解説文を作成する。ここでは,教科書P.１４２～P.１４３の美術絵画から「風神・雷神」を選択し,「対の美」についても着眼させる。また,第二次で身に付けた力を全体で確認し,第三次の活動に入らせたい。

この学習後,総合的な学習である「船越保武の作品鑑賞会」へとつなぎ,自分の紹介したい作品の解説文を書き,その魅力を紹介していく。

単元学習を進める間,並行読書として解説がある美術絵画に関する本を身近に置き,美術作品と解説に触れあえる環境を整えたい。特にも，第２次で用いる「絵画４点」は，必読できるよう拡大して掲示しておく。

５　単元を通して育てたい読書力

C　テキストを活用して思考し,課題を解決する力
D　テキストを活用して自己表現し,他者と交流する力

６　単元の指導目標

○　絵巻物などに興味をもち，文章を読もうとすることができる。　（関心・意欲・態度）
◎　自分の感じた美術作品の素晴らしさを解説するために，複数の資料や文章などを選び比べて読むことができる。　（C読むこと　カ）
◎　自分の感じた作品のよさを伝えるために，素晴らしいと感じる具体的な要素や理由を見付け，書くことができる。　（B書くこと　ア）
○　語句と語句とがどのように関連し合って文章全体を構成しているのかを理解することができる。
（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項　イ（オ））

７　単元の評価規準

国語への関心･意欲･態度	読む能力	書く能力	言語についての知識・理解・技能
・絵巻物などに興味をもち，文章を読もうとしている。	・自分の課題を解決するために，複数の本や文章などを比べて読み,必要な情報を選んでいる。（カ）	・自分が多くの人にぜひ勧めたいと思う事柄のよさを，確かな根拠をもって選んだり，他と比較してのよさをとらえたりしようとしている。（ア）	・文末表現や助詞の使い方など語句に着目して読み，語句と語句との関連を理解している。（イ（オ））

８　指導計画（C読むこと５時間　　B書くこと４時間）

次	時	○目標　・主な学習活動	○指導上の留意点　☆評価（方法）	テキスト
一	1	○『風神雷神図』を見て，感想を交流し，学習計画を立てることができる。 ・「風神雷神図」を見て，「心がひかれたところ・ひかれたこと」に印を付ける。 ・印を付けた理由を交流する。 ・「鳥獣人物戯画　甲巻」のミニチュアを見て，この絵巻に解説をした教材文があることを知る。 ・単元の学習課題を設定する。 筆者の「ものの見方」を活用して，絵画コメンテーターになろう。 ・教材文を読み,学習計画を立てる。	○風神雷神図を見せ，絵から受ける印象（迫力・ポーズ・表情等）を考えさせることで,友達との見方や感じ方に違いがあることや，うまく表現できないことに気付かせる。 ○自分の心を引かれた観点で『風神雷神図』の解説文を書くために，その参考として『鳥獣戯画』の解説文を読んだり，他の美術作品の解説文で学習したりすることを提案する。 ○学習計画を立てることを通して，学習の見通しをもたせる。 ☆日本に伝わる美術絵画に関心をもち,これからの学習の見通しをもつことができたか。（ワークシート）	風神雷神図 鳥獣人物戯画甲巻のミニチュア 『鳥獣戯画』を読む

二	2	○中核教材を読み，筆者が何を取り上げ，取り上げたものの何に着目し，どのような評価をしているかを絵と文章を照らし合わせながらおさえることができる。 ・Ｐ．１３３の絵をみて「おもしろい・気になる」というところに印を付ける。 ・１～３段落から印をつけたところの説明にあたるところを探す。 ・その説明で，取り上げた部分の何に着目したのか（着眼点）と，どんな評価をしているのか（評価語彙）をワークシートに分類・整理する。 ・「着眼点」と「評価語彙」を『絵を読む』観点としてまとめる。	○絵と文章を対応させながら捉えさせることにより，絵のどのような事実を根拠として解釈したり評価したりしているのかを考えやすくできるようにする。 ○心をひかれた絵の部分や全体を筆者がどのように評価し言葉にしているのかを記述させ，それをグループで話し合わせることにより，解説する文章表現の仕方を理解できるようにする。 ○絵に対応した文章が見付けにくい児童には，文章の「何が・どうした」をまず読み取るように助言する。 ☆絵と文章を照らし合わせながら，筆者のものの見方を読み取ることができたか。　（ワークシート）	『鳥獣戯画』を読む
	3	○中核教材を読み，筆者が何を取り上げ，取り上げたものの何に着目し，どのような評価をしているかを絵と文章を照らし合わせながらおさえることができる。 ・Ｐ．１３５，Ｐ１３６～１３７の絵をみて「おもしろい・気になる」というところに印を付ける。 ・４段落以降から印をつけたところの説明にあたるところを探す。 ・その説明で，取り上げた部分の何に着目したのか（着眼点）と，どんな評価をしているのか（評価語彙）をワークシートに分類・整理する。 ・高畑勲の『絵を読む』観点を整理する。	○絵と文章を対応しながら捉えさせることにより，絵のどのような事実を根拠として解釈したり評価したりしているのかを考えやすくできるようにする。 ○心を引かれた絵の部分や全体を筆者がどのように評価し言葉にしているのかを記述させ，それをグループで話し合わせることにより，解説する文章表現の仕方を理解できるようにする。 ○絵に対応した文章が見付けにくい児童には，文章の「何が・どうした」をまず読み取るように助言する。 ☆「絵を読む観点」を整理し，表現の工夫を読み取ることができたか。（ワークシート）	『鳥獣戯画』を読む
	4	○稲次保夫著「『鳥獣戯画』甲巻」を読み，保夫の着眼点や評価語彙を捉えることができる。 ・保夫の解説について読み，何に着眼しているのか調べる。 ・保夫は，どんな評価語彙を使っているのか調べる。 ・２人の解説文を比べてよさをまとめる。	○高畑勲以外の解説を調べることで，絵画を見る観点が色々あることに気づかせたい。 ○二人の解説を比べることで，自分の考えを深めさせたい。 ☆二人の解説文を基にして，自分の考えを広げたり深めたりすることができたか。（ワークシート）	稲次保夫著 教師改作 鳥獣戯画・甲巻

		○自分の選んだ絵画の解説文についての，着眼点と評価語彙を調べる。	○次時の学習について，パーソナルワークを始め，自分の考えを持てるようにさせる。	
	5 （本時）	○他の絵画の解説文についての，着眼点と評価語彙を交流し，自分の考えを広げたり深めたりすることができる。 ・自分の選んだ絵画の解説文についての，着眼点と評価語彙をグループで交流する。 ・新たに見付けた着眼点や評価語彙を交流する。 ・お互いの評価について話し合う。	○教材にはない絵画についての解説文を調べることで，様々な絵の見方があることに気付かせる。 ○４つの解説文の観点を交流することで，自分の考えを広げたり深めたりできるようにさせる。 ☆複数の解説文の観点を交流することで，自分の考えを広げたり深めたりすることができたか。　（ワークシート）	解説がある美術絵画４点 ・阿波鳴門の風波 ・唐獅子図屏風 ・冨嶽三十六景神奈川沖浪裏 ・龍虎図屏風
三	6 ・ 7	○「風神・雷神」を「絵画を読む」観点に基づいて解説文の構成メモを作成することができる。 ・絵から感じたことを付箋に書き，絵に貼る。 ・付箋を基にして，構成メモを書く。	○「絵画を読む」観点ごとに鑑賞する視点をはっきりとさせながら構成メモを作成させる。 ○前時までの絵画にはなかった「対」の着眼点についても気付かせる。 ○できるだけ短文で表現させることと鑑賞の根拠になった箇所がどこなのかをはっきりとさせる。 ☆根拠を明確にして，構成メモを作成することができたか。（構成メモ）	この絵、わたしはこう見る
	8	○構成メモを基に解説文を書くことができる。 ・構成メモを基に解説文の下書きをする。 ・下書きを推敲する。 ・清書する。	○構成メモと「絵画を読む」観点を基に解説文を完成させる。 ☆構成メモと「絵画を読む」観点を基に解説文を書くことができたか。（解説文）	
	9	○お互いの解説文を読み合い，評価することができる。	○解説文を読み合う活動を通し，友達の考え方や見方に触れ，自分の見方や考え方を広げることができるようにさせる。 ☆根拠をはっきりとして，評価をすることができたか。　（ワークシート）	

９　本時の指導【５／９】

（１）本時の目標

「冨嶽三十六景神奈川沖浪裏」「唐獅子図屏風」「竜虎図屏風」「六十余州名所図会『阿波・鳴門の風波』」等の絵画の解説文についての着眼点と評価語彙を交流し，自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

（２）本時の展開

段階	学　習　活　動	◎重要思考　・言語操作　○留意事項　☆支援
導入（五分）	1　学習課題を確認する。 いろいろな「絵画」の解説文から，「絵画を読む」観点を見付けよう。 2　学習の流れを確認する。	○学習課題を確認させるために音読する。 ・「風神雷神」屏風絵のどこに感動したのか想起して，その感動を伝える解説文を書くという目標を再認識させる。
展開（三十五分）	3　解説文から読み取った「着眼点」と「評価語彙」について話し合う。 （１）同じ絵画を選んだグループで話し合う。（グループ） ①見付けた「着眼点」について交流する。 ②見付けた「評価語彙」について交流する。 ③他のグループに紹介したい「着眼点」と「評価語彙」について話し合う。 （２）全体で交流する。（全体） ①他のグループの観点について質問をする。 ②今までに出てきた「絵を読む観点」は板書から外し，残った物を整理・分類する。 ③多様な「着眼点」があることや，絵のよさを表す「評価語彙」があることを確認する。	○４時間目で書き込んだワークシートを見せながら発表させる。 ◎今までに出ていない「着眼点」と「評価語彙」を選び，他のグループに紹介できるようにさせる。 ○紹介する「着眼点」と「評価語彙」はカードに書き，分類して黒板に貼らせる。 ◎「協議」となるよう話し合わせる。 評価 他の絵画の解説文についての，着眼点と評価語彙を交流し，自分の考えを広げたり深めたりすることができたか。（ワークシート） ☆　板書を基に自分が共感した観点はないか考えさせる。
終末（五分）	4　学習をまとめる。 （１）これまでの「着眼点」と「評価語彙」全てを「絵を読む観点」としてまとめる。 （２）筆者の立場によって「絵を読む観点」が多様であることを確認する。 5　学習をふり返る。 6　次の学習について知る。	○自分の感性で「絵を読む」ことが大切なことを押さえたい。 ○ふり返りを学習計画の欄に書き，発表させる。 ○「風神・雷神」について，解説文の形にして書く学習を行うことを確認する。

10　板書計画

筆者の「ものの見方」を活用して
絵画コメンテーターになろう

学習課題

いろいろな「絵画」の解説文から，「絵画を読む」観点を見付けよう。

「着眼点」

絵①
解説文

絵②
解説文

絵③
解説文

絵④
解説文

「評価語彙」

補助黒板

絵を読む観点

着眼点

評価語い